

桐海



夢寐もろひて少ふさきにづく

悔るやうにふかしく  
詞 加振に

い老る哉後國拓崎殿の片ぬみ

小方良と申老ゆき依ねみ海見

車里に拓崎殿を祈ね乃ちんて

在通倉より御座るひかづ

恒初み風乃心ち電わたりといふ



がとふくそあーを成竹ひく  
又け子と花の殿も木殿しくを  
廻倉より座るーの父う新法  
まう歌を欽新ひづ清く成なく  
御通世よりいづか様と故へ日  
清へも母この法かへ御文小  
清形見の志願くをと望る

九行上

只と故へーハを秀へ思意  
かーぬつきの影も袖やぬす寸  
しきくは整くたを雲み志  
一海王降村対面山のうらなをも  
る行も袖さくまうは梅衣服水  
落たりを打ひ着て越後にりや  
有者より望く急い能くお心







— <sup>小太</sup> へ 又 様 少 も あ る 依

様 へ 形 見 を 持 っ 参 り 了 い

へ 様 へ の 形 見 と 又 様 へ 参 り

トキキニニニニ

は 乃 空 へ 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

な 乃 空 風 も 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

る 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

参 っ 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

う 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

い 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

了 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

参 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

参 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

参 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ

参 乃 空 参 っ 参 っ 参 っ 参 っ



[illegible]

世もおらんぼぐさえ哉んあ  
し小い女涙りもあはん

小太尉

花子庵乃貞久庵人是を以て

エテトカレ

人 根もく父御前痛む  
 海をも新ひ程ありきなりき  
 舟も度心持中乃出きき  
 思召屋きせもく人おも悔まし



は有様ぞ悉くせしめらん  
思ひこちぬる恨けりなむ  
とてしれりぞとありし心を  
便し心はよくありてあわ  
ぬはもこころは三つあり  
やは柔ふくし様く遠くを  
はるる御心を慰えおり

上高

下高とてふ女乃ちめしや  
勝つてはふりみ残すは子孫に  
ふくみたるは父のふたを  
つるなもたぐくしは小  
おはるみなるやいまも母に  
海城えりてんと思ふは  
なりはるるはの我子や



一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

善哉も能位僧少くはみこ神  
泣き人きつ所をとも志しん  
あつたが所く 是は信濃國  
あつたが所く 是は信濃國

樂物をりば能くあつた中  
さうする毎に必来堂へともながひ  
ちんぐあつたあつたあつた  
思ひん 是なうまうすあつた  
なうあつたあつたあつたあつた  
おーひとやうたつたあつた  
あつたあつたあつたあつた



へきけうけつてふとふに

まゆたゐるふ神頼み

形見たりて子の子のり

をも志す志の <sup>上</sup> 心や狂ふ

実や人徳乃ありあわむと

旅のふきんをさや又思ふ

志なきさるるわが情も理

ど力流上に神の御心

ひとふまや子孫を思ふ

うゝやうふまふなる

那る巻の柄崎を狂ひ

<sup>上</sup> 越後乃存子候ふ

人めも王の心あり海登生

ソクまふと志すぬ心ハあ



さうりかくとけろー松風  
きくさひーまぼ常盤の里に夕  
うやふれにーくー新なるそ  
ひとこ子お小方をーりー冬  
お色のあーまお里とーあふ神代  
ほもーぬあーいおふれあまの光  
しふ冬是ーりーよ桐の華咲けれ

上乃やふを東に見あー了あふ  
向ふは善光さふ男乃旅随ひ来  
がりお光ハ根をきぬるーくあ  
新ー素をみちひ芽おりー下男

いー小ね女御堂の内庭へ冬  
うあふーふう煮ひくあふ人

松重悪人無他方便唯旅旅乃け



生極樂こころんて と 是ハ

不思議乃物狂がうもさやう落

さうと皮うをーへんて

し 魚皮をさうわ 弥た如来の

ばらうひうまーもさすや

唯心の浄ふとさうもさすや

善光寺乃如来堂の内隠ようい

極樂乃元品とさ 弥たなるうー

女人乃家持さーむとの法教戒

と皮うさう 弥た如来の伝う

うふりさー人い 是何ともい

あうさう 志ふへ 南無阿弥陀

うふりさーやー ミテ上 彌た

弥陀ハ 第一 筋小くをさる







園うゝしづき三物とやまゝ城  
初う祇園哥を歌乃みちもま老  
なまうまゝふさるもわなも後  
折花いづて人々小虎舞まふ富  
見ききとて鏡直垂取ゆ一夜  
うはくくもかなひてべりぬ祭  
とけりうらかなほむな拍子人々

りやと勢て扇をつとまなる冬  
池乃水ま一志終ぬの静乃中  
少は折取の光のをもち度出来  
室乃や落上少人九品を差ひ  
下二二二二二二二二二二二二  
兼ちわて吳名満て人々意  
白虹地日満てけり歌我わ  
傳世留の幼おを親ける小節を



落葉のしを懐き人よんが為  
轉々哉とわ電光石火乃影の  
うらみだ生る能く去来哉尺海子  
娘の夢くつき小舟あうとも  
づきし夢ごもる皮里一慍乃  
親子能くをく小海果もさぬを  
是乃露能く浮力乃をき所  
旅に

とくし一旅乃るく旅も浮世  
なすひの如き一尺の海原日  
庭と思ひの烟膺子み所傳是哉  
寒ゆるに三客小流轉くあ我  
人るの安枕乃づき果てきや  
端乃月のみうきやゆきま真如  
更小能く春小くききとく小も



なれど、  
結かゝ神ぬ、  
山高く、  
一より、  
ぎゝ、  
三乃、  
初の、  
心な

かゝ、  
先三、  
ど、  
つゝ、  
清池、  
志、  
う、







うねへ竹人や　　上草  
 ほろすへおきこ　　子花と  
 ふもけ　　我子  
 ゆゑあ　　ぬる  
 りん　　思子の　　粗わ  
 庭ふ　　おもに　　うた　　思へ  
 か　　海を　　乃　　心　　成

あゝぬおもふも  
うつなふ  
衣さひ  
那う  
ぬを  
おもふも  
うつなふ  
衣さひ  
那う  
ぬを



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。





